

中央即応集団編成完結！



CRF



日本地図及び赤の輪（日の丸）で国内任務を表現し、赤の輪（地球儀）で国際任務を表現しています。

CRFとは
中央即応集団の英訳
Central
Readiness
Force
の頭文字をとったものです



演説をする久間防衛大臣

三月三十一日、朝霞駐屯地において、防衛大臣、統合幕僚長、陸上幕僚長、在日米軍司令官ら多数の部内外の来賓を迎えて、CRF編成完結行事が盛大に執り行われた。

この際、久間防衛大臣から安倍内閣総理大臣のメッセージが伝達された。

「本年一月九日、防衛省を足さず、国防と国際社会の平和に取り組み我が国の姿勢を明確に示すとともに、新たな安全保障環境において我が国の平和と安全観点から今後果たすべき役割として重要と考えられる国際平和協力活動等を本来任務として位置つけた。

多様な情勢の中、この度中央即応集団が新編されたことを内閣総理大臣として心強く思う。国防の最前線、あるいは、国際平和協力活動の指揮、教育訓練等に当たる諸官はその任務の重要性を自覚して、職務に精励されたい。諸君の今後の活躍を期待する。

内閣総理大臣

安倍 晋三

着任の辞



中央即応集団司令官

陸将 山口 淨秀

本日ここに、防衛大臣直轄部隊として「中央即応集団」が編成を完了した。

司令官を拝命した山口陸将である。さて、諸官承知のとおり、本年一月、防衛庁の防衛省移行に伴い、国際平和協力活動が自衛隊の本来任務となり、まさに陸上自衛隊の中核として、国内の各種事態対処はもとより、国際的な平和協力活動をも担任する本集団を、初代司令官として指揮統率できることは誠に光栄であり、その責務の重大さに身の引き締まる思いである。

小職は、この瞬間より国内外を問わず各種任務に迅速・的確な対処が求められる「中央即応集団」の地位・役割を思い、「何時、何が起きてもし不思議ではなく、自衛隊の即応力が試される今日」、諸官等ともに「所命必遂。何時、如何なる任務にも即応し、これを確実に達成し得る精強で活力あふれる部隊」の練成に全力を尽くし、国民の皆様のご負担に答える所存である。

各部隊・隊員諸官にあたっては、武力集団の原点に立ち返り、それぞれの地位、職責に応じ、国際平和のため、国家国民のため、自らの部隊のため、そして同僚・家族のため、名誉と誇りある中央即応集団の部隊・隊員を目指し、心身を鍛え、識能を磨き共に新たな歴史の創造に向け、チャレンジ精神をもって精進することを期待する。

終わりに、ゼロからの出発にもかかわらず、本日の編成完結に向けて献身的に諸準備を推進してきた集団司令部及び隷下各部隊、並びに多大なるご支援を頂いた陸上幕僚監部、東部方面総監部をはじめとする関係各位に心より敬意を表し感謝申し上げますとともに、現在、遠く中东ゴランの地にて国際平和維持活動に従事している隊員諸官、そしてまた、これからまさに任務に赴こうとするネパール派遣要員諸官の健勝を祈り、着任の辞とする。



中央即応集団協働会
会長 山下 信道

中央即応集団の隊員並びにご家族の皆様、中央即応集団新編まことに改めてとうございます。私は、この度中央即応集団協働会会長を務めることになりました山下信道でございます。

さて、わが国を取り巻く環境を見てまいりますと、北朝鮮問題、中国の東シナ海におけるガス田開発等不安定な要因が存在する中、「防衛庁」は「防衛省」へと昇格し、国際貢献活動も本来任務へと格上げされました。これまでも陸上自衛隊はイラク人道復興支援活動、大規模災害による国際緊急援助隊としての派遣、ゴラン高原におけるPKO活動等様々な事態に対応してまいりました。そのような中、自衛隊の統合運用のもと海空自衛隊との連携を密にする等、まさに時期を合致させるように中央即応集団が新編されたことはまことに心強く、喜びにたえません。

中央即応集団は、「何時いかなる時にもいかなる任務にたいしても即応し行動できる」すばらしい能力を持つ部隊であると伺っております。このような部隊に対しまして国民の期待は益々高まってきたところでございます。

我々中央即応集団協働会は、このように素晴らしい部隊をご支援、ご協力できることを会員一同無上の喜びと考えております。

最後になりますが中央即応集団司令官山口淨秀陸将を核心として全世界を活動の場として活躍される事とともに隊員ご家族皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして新編お祝いのご挨拶とさせていただきます。

中央即応集団発足に寄せて
内閣府国際平和協力本部事務局
国際平和協力研究員

(UNHCR休職中)

岩崎 直子

この1年間、職場や勉強会、駐屯地等で、主に同世代の自衛官の皆さんと、紛争や自然災害の現場における民軍関係について意見を交換し、良い刺激を受けた。

本来任務への格上げに続き、中央即応集団編成後は、自衛隊の国際平和協力業務がどう深化するのか、注目している。一部の人道援助機関では、難民の大量流出等の危機を想定し、自衛隊の輸送力に関心を寄せる向きもある。

また、長年、世界の紛争地で様々な成功と失敗を経験してきた文民の中には、その知見を自衛隊と共有することに積極的な国際平和協力の実務家も少なからず存在するとの感触を得ている。

民軍の棲み分け等を巡る議論を踏まえつつ、今後これまでに以上に相互理解が深まり、建設的な関係が築かれることを望む。国際平和協力の分野で、我々文民も限られた条件の下で、現実と向き合いながら、最善を尽くすべく業務にあたっている。お互い活動の内容及資源に多少の制約はあっても目指す質と士気の高さに天井はない。

CRF 隷下部隊長紹介



第1空挺団長

陸将補

岡部

俊哉



第1ヘリコプター団長

陸将補

福盛

裕一



特殊作戦群長

一等陸佐

古田

清悟



国際活動教育隊長

一等陸佐

軽部

真和



第101特殊武器防護隊長

二等陸佐

笠畑

忠嗣



司令部付隊長

三等陸佐

福田

豊